

目指す学校像	子ども・保護者・地域の期待に応え、信頼される学校
--------	--------------------------

重点目標	1 教科担任制や調査結果を活用した個別最適な学びの推進 2 児童が安全で安心して通える学校環境及び体制の構築 3 保護者、地域の願いを踏まえた学校運営と積極的な情報発信 4 本校の教育活動に生かすことができる教職員研修の実施
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和5年2月14日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均、市平均と比べて良好な結果である。 ○学校評価において、「学習内容の理解」に関する質問項目に肯定的な回答をした児童の割合は高く、分からないことについて自主的に教員に質問するなど学習意欲が高い。 <課題> ○各種調査の平均正答率に留まることなく、児童一人ひとりを大切に「個別最適な学び」を実現する。 ○授業における1人1端末の積極的かつ効果的な活用についての研究、実践を積み重ねる。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・「真の学力」の育成に向けた指導方法及び指導体制の確立	①教務主任を中心に、全国学力・学習状況調査の振り返り、結果の考察、学力向上カウンセリング学校訪問の実施を行う。 ②管理職による全教員を対象にした授業参観で指導助言を行う。<「アクティブ・ラーニング」、「個別最適な学び」の視点を取り入れた授業実践>	①全国学力・学習状況調査の平均正答率が昨年度から維持することができたか。 ②「よい授業」アンケートの因子④(アクティブ・ラーニング)の平均値が向上したか。	・全国学力・学習状況調査結果を生かすために、校内での考察、市教委から指導者を招聘した研修会の実施を通じて、 自校児童の学習・生活の状況を把握し、共通認識をもつことができた。 ・教員一人につき一回以上、ICTを活用した授業を公開、管理職による指導助言を行った。また、公開授業を相互に参観し合うことで 授業改善につなげることができた。 ・今年度の取組について、研究推進委員会で成果と課題を共有し、日課表や学級配置等の運営面、次年度の実施学年の検討を行い、 次年度の方向性を定めることができた。 ・教科担任制を実施する際の課題の引継ぎを行うことで、 指導体制を整えることができた。	B	・全国学力・学習状況調査結果については、単年での結果に留まらず、経年的な視点を持ち、 本校児童の学習や生活に関わる傾向を捉え、改善方策を検討していく。 ・引き続き、授業において ICTを積極的に活用するとともに、効果的な活用方法について教員間で情報共有する。 ・高学年教科担任制を継続して実施するとともに 他学年での一部教科担任制の効果的な在り方等について研究を進めていく。 ・学校全体が円滑に教育活動を推進できるように 日課等の見直しや改善を継続して行う。	・昨年度から実施している教科担任制については、好意的な意見をもつ保護者が多い。小・中の連携が一層進み、より質の高い授業が実現できることを期待している。
2	<現状> ○学校評価において、「学校での勉強や生活で楽しい時間がある。」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、約90%であり、学校が楽しい場所であることが伺える。 ○「いじめ防止に向けた取組やいじめ等に対して対応を行っている。」の項目で90%、「困ったことや心配なことを相談できる体制になっている。」の項目で92%と保護者の信頼を得られている。 <課題> ○学校管理下での児童のケガの発生件数が多く、救急車の要請及び病院搬送が複数件見られた。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた指導の充実	①生徒指導・教育相談部会を毎月1回開催し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②児童や保護者と密にコミュニケーションを取るため、サンキッズ相談日を毎月1回実施し、必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどと情報共有を行い、適切な支援体制を整える。	①学校評価の「いじめ防止に向けた取組やいじめ等に対して対応を行っている。」及び「困ったことや心配なことを相談できる体制になっている。」の項目で肯定的な回答の割合を維持できたか。 ②サンキッズ相談での面談内容が、管理職及び関係職員に確実に共有されたか。	・生徒指導・教育相談部会を毎月1回開催し、児童一人ひとりの状況を校内で共有することで、 職員が共通認識をもって児童の指導や支援に当たる ことができた。また、各種アンケートにおいて、心配される回答をした児童と速やかに面談を行い、校内で情報共有を図った。 ・児童や保護者とのコミュニケーションを図る機会を計画的に設定し、 相談内容等について、専門職とも情報共有し、支援体制を整えることができた。 ・校内でのケガ発生状況の把握に努めるとともに、事案が発生した際には、職員集会等において全職員で情報共有し、 職員の安全管理等の意識の向上、管理体制の再確認、児童への生活指導の徹底 を図った。 ・毎月1回の安全点検を確実にを行い、 破損個所や危険個所の早期発見及び速やかな修繕 を行い、児童のケガ防止に努めることができた。	A	・いじめの早期発見や不登校児童への適切な関りができるように、 生徒指導・教育相談部会での協議項目、内容等を充実 させる。 ・校内での密な情報共有の場の設定やサンキッズ相談日の実施を継続するとともに、必要に応じて市教委や外部機関と連携し、 児童への適切な支援方法等について教職員の資質向上に努める。 ・大きなケガは減少傾向にあるが、施設・設備の老朽化している場所や盲点となる場所等を再確認し、市教委に相談しながら、 一つ一つ具体的な改善 を行っていく。 ・安全点検が形骸化することがないように、 教職員の施設・設備の安全意識を向上 させるとともに、 よりよい学校環境づくり に努める。	・学校は、安全管理等を適切に行っている。最近、不審者に関する情報が多いように感じて、防犯ボランティア等が増えて、児童の安全を見守る体制ができることが望ましい。
3	<現状> ○昨年度より実施している学校運営協議会において、本校の目指す児童の姿について熟議を行い、自ら課題を見出し、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくことを共有した。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止の視点から、様々な工夫をしながら平常時に近い形で学校行事等を実施することができた。 <課題> ○学校運営協議会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域、企業などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。 ○学校の教育活動や児童の様子などを参観する機会を設けるとともに学校ホームページ等を活用して双方向的なコミュニケーションが取れるような工夫を検討する。	・目指す児童の姿の地域全体での共有 ・学校行事の公開や参観の機会の充実	①学校運営協議会の議事録、学校課題研究の取組や成果などを学校ホームページに掲載し、保護者や地域の本校教育活動への関心を高める工夫を行う。 ②元気な挨拶が飛び交う学校を目指し、児童会のあいさつ運動、管理職及び教職員による登校時の立哨指導を行う。	①学校評価における「家庭・地域等との連携」の『そう思う』の回答率が向上したか。 ②学校評価における「あいさつ」の『そう思う』の回答率が向上したか。	・2年目となった学校運営協議会や3年間研究を進めてきた食育の成果を学校ホームページに掲載するなど、これまで以上に 本校の取組の情報発信 に努めた。特に、食育については、保護者との連携の下、 望ましい食育の推進 が図れた。 ・あいさつ運動を活発に行うとともに、学級での児童への声掛け等を通じて、 自分からあいさつできる児童が増加 した。	A	・学校ホームページがリニューアルされることを機に、より学校の情報を得やすいようにレイアウト等の工夫を行い、より 積極的な情報発信 を行う。 ・気持ちのよいあいさつが交わされる学校を目指して、 大人が率先してあいさつを行う環境づくり をする。 ・学校行事等については、感染症対策を講じつつ、教育効果や業務負担等の様々な視点から精査や見直しを行うことで、 これまで以上に質の高い教育活動を実現 していく。 ・60周年を一つの契機とし、地域人材に積極的なアプローチを行い、より 地域と連携した学校運営 を行っていく。	・自分からあいさつできる児童は確実に増えてきている。大人からのアプローチが大切だと感じる。 ・60周年行事は、児童を中心に据えた取組が実施されてよかった。学校行事については、コロナとの共存の視点で、今後の開催方法等を検討してほしい。
4	<現状> ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストを中心に研修及び情報共有を重ねており、全ての教員が、ICTを積極的に活用した授業を日常的に実施している。 ○市教委委嘱「学校における食育等」の研究発表会に向けて、日頃から食育の研究、研修を積み重ねている。 <課題> ○次年度以降の本校の教育活動に生かすことができる研究、研修を推進していく。	・学び続ける教職員集団の確立のための研修の実施	①エバンジェリストを核として、教職員の情報機器活用能力を向上する。 ②「食育」に関する授業実践<1人1授業>を実施する。また、学校課題研修研究授業を実施するとともに、研究成果をまとめたリーフレットを作成する ③小・中合同で授業力向上に係る校内研修や相互に参観する授業公開期間を設け実施する。	①エバンジェリストを中心に情報機器活用研修会を年2回以上実施したか。 ②学校評価における「研修」の項目で『十分できている』の回答率が向上したか。 ③小・中間での情報交換、共有を行い、次年度の指導に生かせる引継ぎ資料を作成することができたか。	・エバンジェリストが中心となり、情報機器活用の研修会を実施するとともに有志によるICT勉強会の実施、ICT活用についての掲示などを通じて、 教職員の情報機器活用能力が向上 する機会を設定することができた。 ・全教員が食育に関する授業を実践し、授業実践や取組等をリーフレットにまとめ、 研究成果を市内に発表 することができた。 ・全教員を対象とした小・中合同研修会以外にも、両校の推進委員による打合せや担当者会議などを実施し、 中学校と密に連携 を図ることができた。年度末に向け引継ぎ資料を作成する。	B	・エバンジェリストを中心としたICT活用研修会等を継続し、 より一層教職員の情報機器活用能力の向上 を目指していく。 ・小・中一貫教育研究指定校として、中学校との密な連携を継続し、令和3年度からの研究成果を市内に発表するとともに、これまで蓄積してきた研究を生かして よりよい教科担任制の在り方を検討 していく。	・教職員はとてもよく頑張っているように感じる。一生懸命に働き過ぎることで、教職員が長時間勤務になっていないかを懸念している。

